

課外活動を見つけるのも楽しみ



福江 誠さん 教育人間科学部3年

昨年秋、大学教育開発研究センター(大教センター)の支援のもと、学生の立場から大学の改革と再発見を目指していこうという団体、新大開拓系サークル『うぐっす』が生まれた。『うぐっす』のメンバーであり、他にも複数のサークルに所属している福江誠さんにお話を聞いた。

まず『うぐっす』についてお聞きします。『うぐっす』はどういう集まりなのですか？

大学生活で『大学のあそこどうにかならないかな?』と感ずることを学生同士出し合って、大教センターの先生と話し合いながら学生の意見として取り入れてもらっています。

今までどのようなことをしましたか？

まず授業アンケートの改善を試みました。他大学と比較してアンケート項目の再検討を行いました。また、メンバー外の学生の悩みや大学への疑問を聞く「新大セッション」という場を持ちました。

なぜ『うぐっす』に参加しようと思ったのですか？

はじめは軽い気持ちだったのですが、

先生と話しているうちに、他大学では学生の意見が大学に影響を与えていることを知り、大学に足跡を残すのはかっこいいなって。それと、僕の中には「出る者は後の人の為になんかしてはいけない」という考えがありまして、自分達が困ったことを改善して後輩達が助かるならという想いもあります。

『うぐっす』でやっていきたいことはどのようなことですか？

同時時間帯に興味ある授業が複数ある場合に、ガイダンスを前後半制にして二つ受けられるような提言をしていきたいです。また就職サポートのようなことも行えればと考えています。

次に福江さん自身についてお伺いします。新潟大学に入学したときの第一印象は？

大きな大学で人が多いな、と。サークルの新歓活動には圧倒されました。熱気が凄いなと。パワーのある大学なんだと思いました。

大学に入って戸惑ったことはありますか？

聴講取りにしても、勉強の仕方にも入る前のイメージと全然違ってました。何でも一人でやらなくては行けないので、厳しいとも思いましたが、社会に出ていく人間がやらなければいけないことを学んでいるとも感じました。

あと、初めての集団に如何に馴染めるかなと考えていました。

福江さんはたくさんのサークルに所属されていますが、新歓の時に多数のサークルを見学したのですか？

そんなには回ってないですね。初めに決めたサークルが気に入っちゃって...

ただ、もったいなかったなと今では後悔しています。新歓の時は新入生ということに甘えて、いろんな団体の新歓に顔を出しておけばと思っています。団体を見るのはもちろん、新たな交流が生まれましますし...

大学に馴染むということに不安を感じている新入生も多いと思いますが、人と仲良くなる秘訣はありますか？

はじめに恥ずかしがらずにたくさんの人に話し掛けるのが大事だと思います。新潟大学の魅力は総合大学であることなので、他の学部の人と仲良くなれるのも魅力。将来友人に様々な職種の人がいるのは素晴らしいし、在学中においてもプラスになる部分がたくさんあると思います。

最後に新入生へメッセージをお願いします。

三つあります。一つ目はいろんな人に話し掛けましょう。嫌だと思った人もまずはどんな人が話してみるといいと思います。二つ目は遊ぶ。遊ぶことで気分転換になるし、関係も広がるはず。三つ目はどこかで将来のことを考えておくといいと思います。考えただけじゃなくて、考えて何かしてみることが大切だと思います。

インタビューを終えて
「大学は、もしその場所が過ごしにくいと感じたら変えられる場所なんだ」という言葉が印象的でした。「大学生活を過ごして疑問に感じる事があったら意見を言うだけでいいので、一度『うぐっす』に遊びに来てくれれば」ということでした。お菓子も出るという噂も...『うぐっす』に興味を持った方は大教センターまで。
(学生編集委員 医学部5年/佐藤寿和)



網川直喜さん 教育人間科学部4年

網川さんは「まなび屋」を始めとして、いろいろなボランティア活動に参加し、大学生活で数々の貴重な体験をしてきました。そこで、具体的にどのような活動をしているのか、新入生の皆さんに知ってもらいたいと考え、今回お話を伺ってみました。

今までの大学生活の中で一番力を入れた活動は何ですか？

それは「まなび屋」という活動ですね。「まなび屋」というのは新潟大学と新潟市西地区公民館が連携して行っている活動で、具体的には毎週木曜日に公民館で小・中学生を対象に学生や地域の方々が講師となって学校では教えないことを、子どもたちと一緒にまなぶといった活動をしています。

「まなび屋」は、いつでも誰でも参加できます。いろんな学部のガイダンスでも説明しますが、西地区公民館に来ていた



花絵プロジェクトにおけるチューリップ摘みの様子の一場面

できれば参加できます。

他に経験した活動があれば教えてください。

「まなび屋」をきっかけに、他にもいろんな活動ができました。花絵プロジェクトといって毎年春に行われているもので、チューリップ畑に何千本というチューリップを摘みに行き、そのチューリップを穴の開いたボードに挿して絵を作っていくというものがあります。その実行委員としてお手伝いさせていただきました。他にも、小学校や保育園、数多くのところにボランティアに行きました。

また、「まなび屋」で得た経験を生かして、個人的にも活動をしています。新潟市曾野木地区公民館で行われている、フリースペースや東曾野木小学校で行われているふれあいスクールで小学生と一緒に遊んだり、2月～3月に長野で行われたスペシャルオリンピックスのボランティアにも行きました。

これらの活動を通して学べたことや、その活動をする中で何か自分が成長したと感じたことはありましたか？

いろんな人と関わるちからです。今まで人と接することが苦手だった自分は、このような活動をする中で、自然と多くの人たちと接することができ、人が好きになりました。

また、いろいろなことに対する積極性です。これも自分にとっての課題だったのですが、とにかくいろんなことをしてみようと思うようになりました。

それと、いろんな経験を積むことで、ものごとをいろんな角度から考えることができるようになったと思います。



まなび屋の活動での授業風景。この日のテーマは「中国語で遊ぼう。」

うまくいかなかったことや失敗したことがあったら教えてください。

多くの人と活動をするときに、つい自分一人でやってしまったり、うまく他の人に仕事を割り振ることができなくて、自分で抱え込んでしまったことです。

これからの大学生活に胸を躍らせている新入生の皆さんにメッセージをお願いします。

自分で何かやりたいものがある人はそれを、まだそれが無い人はとにかくいろんな活動をしてみてください。最初は勇気がいりますが、一歩踏み込んでしまえばきっと、楽しい経験ができると思いますよ。その中できっと、あなたがやりたいことがみつかるはずですよ。せっかくの大学生活思いっきり楽しみましょう。

インタビューを終えて
網川さんはまなび屋や数々のボランティア活動を通して、多くの人々と出会い、様々な経験をする中で大きく成長できたそうです。何か新しいことに挑戦したり、新しい世界に足を踏み入れることはとても勇気がいりますが、新入生の皆さんもぜひとも最初の一歩を踏み出して多くの経験をして欲しいと語っていました。
(学生編集委員 教育人間科学部4年/阿部純也)